

公的資産活用検討会(第2回) 報告

日 時 平成 30 年 9 月 12 日 (水) 午後 2 時 1 分から午後 4 時 28 分まで

場 所 みなく～る明舞 (明舞まちづくり交流拠点) (明石市松が丘 2 丁目 2-6)

事務局 兵庫県県土整備部住宅建築局住宅政策課

団地内の公的資産である公園を有効活用するとともに、子どもの生活環境を充実させ、コミュニティづくりを推進するため、公的資産活用検討会を開催しました。

■ 講義

神戸女子大学家政学部梶木典子教授により、「地域における子どもの自由な遊び場を考える ～冒険遊び場(プレーパーク)づくりの可能性～」と題して、以下の項目について講義が行われました。また、梶木教授から以下のとおり助言を得ました。

○講義項目

- ① 緑とオープンスペースをめぐるこれまでの状況
- ② 計画的な大規模団地の抱える課題
- ③ 子どもの遊びを取り巻く現状
- ④ 子どもの自由な遊びを保障する冒険遊び場づくり
- ⑤ 冒険遊び場づくり活動等の先導的事例紹介



○助言概要

- ・ 広報の仕方が大切であり、楽しくなる画をまず見せることが最初のきっかけとして重要である。
- ・ 青少年本部の補助金をはじめ各種助成金等を活用すればよい。
- ・ まずメンバーの選定・育成とプレーパークのための場づくり (環境整備) が必要である。
- ・ 見守る大人がどのレベルで口を出すかということについてコンセンサスを得ておく。
- ・ 水・トイレの確保、使用エリア選定と占有許可、保険など大人のやるべきことは多い。
- ・ 公園は使うことによってイメージが変わることもある。
- ・ 当事者である子どもの親を入れておくべきである。
- ・ 人を集めるための声掛けには工夫が必要である。
- ・ 冒険遊び場の会議は、大人が連れてきた子どもがいてもよい雰囲気にした方がよい。
- ・ 保育所の園庭開放に来ている親子に声掛けする方法もある。
- ・ まず、試行的に実施した上で、口コミで広げていってもよい。
- ・ パンや焼き芋など簡単に準備できる食べ物が付いたイベントから始めてもよい。